HP Network Node Manager i Software Smart Plug-in Performance for Metrics/ Network Performance Server

Windows® オペレーティング システム向け

ソフトウェア バージョン : 9.00

インストール ガイド

ドキュメント リリース日 : 2010 年 3 月
ソフトウェア リリース日 : 2010 年 3 月

ご注意

保証

HP 製品とサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。HP では、ここに記載されている技術的、または編集上の不正確さや脱漏については責任を負いません。

ここに記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。

制限付き権利に関する通知

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP が提供する有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に準拠し、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダーの標準商用ライセンスの下、米国政府にライセンスされています。

著作権に関する通知

© Copyright 2009 – 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標に関する通知

Java™ は、Sun Microsystems, Inc 米国内での商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国内での登録商標です。

UNIX® は、オープン グループの登録商標です。

謝辞

この製品は、libjpeg ライブラリを含みます。Copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane.

Graphics Interchange Format(c) は、CompuServe Incorporated の所有物であり、著作権を保持します。GIF(sm) は、CompuServe Incorporated の所有物であり、サービス マークを保持します。

この製品は、libxml2 ライブラリを含みます。Copyright (C) 1998-2003 Daniel Veillard. All Rights Reserved.

この製品は、libxp ライブラリを含みます。Copyright © 2001,2003 Keith Packard.

ドキュメントの更新

本ドキュメントの表紙には、次の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア バージョン番号
- ドキュメントの更新ごとに変更されるドキュメント リリース日
- ソフトウェアのこのバージョンがリリースされた日を示すソフトウェア リリース日

最近の更新を確認する場合、または最新のドキュメントを使用しているかを確認する場合は、次のサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトにアクセスするには、HP パスポートに登録し、サインインする必要があります。HP Passport ID に登録するには、次のサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

または、HP パスポート ログイン ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

製品のサポート サービスに登録すると、最新版を入手できます。詳細については、最寄りの HP 営業担当者にご連絡ください。

サポート

HP ソフトウェア サポート オンライン Web サイトには、次のアドレスからアクセスしてください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトでは、連絡先情報、および HP ソフトウェアが提供している製品、サービス、サポートに関する詳細が記載されています。

HP ソフトウェアのオンライン サポートでは、お客様に自己解決していただける機能を提供しています。ビジネスを管理するのに必要な、インタラクティブな技術サポート ツールへ素早く効率的にアクセスできる手段を提供しています。お客様は、サポート サイトで以下の機能を利用できます。

- 関心のあるナレッジ ドキュメントの検索
- サポートケースおよび拡張リクエストの送信および追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問合せ先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ソフトウェアを利用している他のユーザーとの情報交換
- ソフトウェアトレーニング情報の検索および参加登録

大部分のサポートには、HP Passport へのユーザー登録とログインが必要です。さらに、大部分がサポート契約を必要とします。HP Passport ID に登録するには、次のサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

アクセス レベルに関する詳細については、次のサイトにアクセスしてください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

1 はじめに 7
アーキテクチャの概要 8
NPS のコンポーネント 8
インストールの概要 9
NNMi 管理サーバーへのインストール 9
専用サーバーへのインストール 9
追加情報について 10
ドキュメントの表記規則 10

2 前提条件とプランニング 11
前提条件 11
インストールのプランニング 11
NNMi のバージョン 12
プラットフォームの組み合わせ 12
ファイル共有メカニズム 12
ドメイン名 13
インストール前のチェックリスト 13
シングル サインオン 15

3 NNMi 管理サーバーへのインストール 17
NPS のインストール 17
高信頼性 (HA) クラスタへの NPS のインストール 18
iSPI Performance for Metrics のインストール 19
iSPI Performance for Metrics の無効化 20
NPS の削除 21
HA クラスタからの NPS の削除 21

4 専用サーバーへのインストール 23
有効化 スクリプトの実行 23
Windows 管理サーバーでの実行 23
Linux、HP-UX、または Solaris 管理サーバーでの実行 25
NPS のインストール 26
iSPI Performance for Metrics のインストール 27
iSPI Performance for Metrics の無効化 28
HA クラスタへの NPS システムのインストール 29
オプション 1: HA クラスタ内に NPS をインストールします 29
オプション 2: NNMi 管理サーバーのみが HA クラスタにある 31
トラブルシューティングのヒント 31

NPS の削除 32
HA クラスタからの NPS の削除 32

5 iSPI Performance for Metrics のアップグレード 35
NNMi 管理サーバーでのアップグレード 35
専用サーバーでのアップグレード 35

6 NNMi アプリケーション フェイルオーバー 37
アプリケーション フェイルオーバー 37
NNM から NPS へのキーストア ファイルのコピー 38

7 ライセンス 39
iSPI Performance for Metrics の恒久ライセンスの取得 39
iSPI Performance for Metrics の追加ライセンス パスワードの取得 40
サードパーティ製のソフトウェアに関する制限事項 40

8 はじめに 41
NPS レポートの起動 41
NNMi コンソールからの起動 41
レポート メニューを直接起動する 41
[スタート] メニューからの起動 42
エラーのないインストールの確認 42
Configuration Utility の使用 43
NPS のトラブルシューティング 44
Log File Monitor 44
Log File Analyzer 44
診断レポート 45
Diagnostic Collector 45
パフォーマンス ポーリングのデフォルトの変更 46
例外のしきい値の設定 46
BI サーバーの管理者パスワードの変更 46

9 インストールの問題 49
問題：インストーラが「*変数の初期設定中に問題が発生しました*」のエラーを示して失敗する 49
問題：システム チェック実行の結果、インストーラによって WARNING メッセージが表示される。. . 49
問題：システム チェック実行の結果、インストーラによって ERROR メッセージが表示される。. 49
問題：NNMi がマシンにインストールされない。NNMi のバージョンが正しくないという NNMi バージョン チェックの ERROR メッセージがインストーラによって表示される。. 49
問題：インストールに長時間かかる。. 50
問題：NNMi コンソールの [アクション] メニューに [レポート - レポート メニュー] へのリンクがない。. 50

A サイレント インストールの実行 51

索引 53

1 はじめに

Network Performance Server (**NPS**) は、Network Node Manager i Software (**NNMi**) と組み合わせて使用できるインフラストラクチャを提供します。このインフラストラクチャにより、ネットワークのパフォーマンス特性を分析できます。NPS では、さまざまな HP Network Node Manager i Software Smart Plug-ins (**iSPIs**) によって収集されたパフォーマンス データにより、データ テーブルを構築し、ユーザーの選択に応じてクエリを実行し、Web ベースのレポートにクエリ結果を表示します。このクエリ結果は、ネットワーク環境の問題の診断およびトラブルシューティングに役立ちます。

NPS メディアには、HP Network Node Manager i Software Smart Plug-in Performance for Metrics (**iSPI Performance for Metrics**) のインストール オプションが収録されています。NNMi によりさまざまなネットワーク要素からポーリングされるメトリック データを収集してモニタリングすることにより、NNMi にコア パフォーマンス管理機能を提供します。NNMi と iSPI Performance for Metrics を組み合わせることにより、ネットワーク インフラストラクチャの運用パフォーマンスをモニタリングできます。

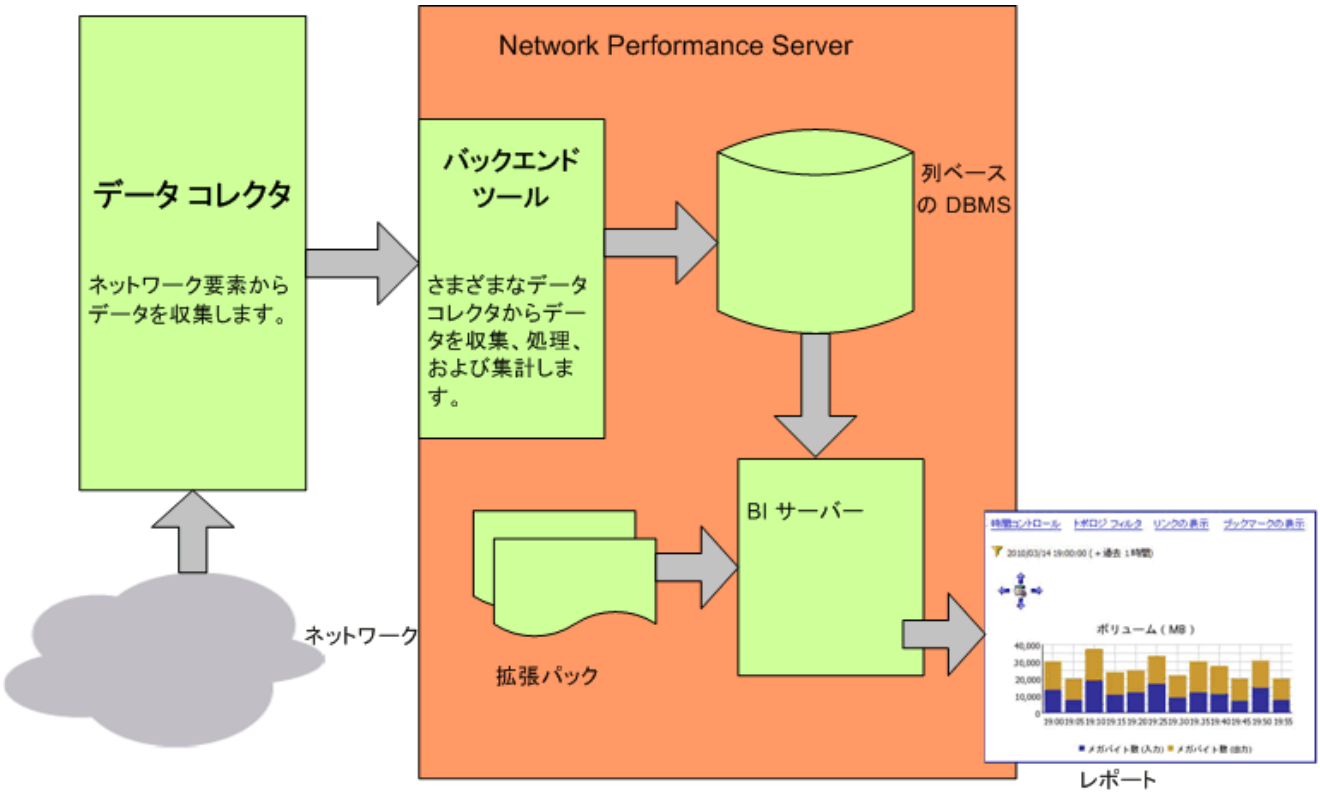
NPS では、他の iSPI Performance 製品 (iSPI Performance for Traffic や iSPI Performance for Quality Assurance など) でレポートを生成するためのインフラストラクチャやリソースを提供します。iSPI Performance for Metrics を使用しない場合、iSPI Performance for Metrics を無効にしたまま NPS をインストールすることもできます。運用環境に NPS がインストールされている場合、他の iSPI Performance 製品でレポートを生成できます。

インストール中に iSPI Performance for Metrics のインストールを選択すると、インストールの終了時に、インストーラにより iSPI Performance for Metrics のインスタントオン ライセンスが有効化されます。インスタントオン ライセンスの有効期間は 30 日間です。インスタントオン ライセンスの期限が切れると、iSPI Performance for Metrics の恒久ライセンスを購入して有効にするまで iSPI Performance for Metrics を使用できなくなります。ただし、他の iSPI Performance 製品のインスタントオン ライセンスまたは恒久ライセンスが有効な場合、それらの iSPI Performance 製品では、NPS インフラストラクチャを引き続き使用できます。

アーキテクチャの概要

NPS は、NNMi またはカスタム コレクタ (iSPI で利用可能) により収集されたさまざまなネットワーク要素のデータの格納、処理および分析を行うインフラストラクチャを提供します。各データ ソースからのデータの収集後に、NPS はデータを処理および集計して、**列ベース**のデータベース管理システム (DBMS) にデータを格納します。ビジネス インテリジェンス フレームワーク (**BI サーバー**) は、データの分析およびレポート作成の根幹を成しています。BI サーバーで利用可能なデータ分析ツールを利用することにより、環境内で利用可能なネットワーク要素のパフォーマンスを示した、すぐに利用可能なレポートを表示できます。

図 1　　NPS の高度なアーキテクチャ



NPS のコンポーネント

NPS のコンポーネントは、次のカテゴリに分類できます。

- **列ベースの DBMS**

  列ベースの DBMS により、NPS ソリューションにデータ ウェアハウス機能が追加されます。DBMS は、さまざまなソースから収集された大量のデータを格納でき、NPS では多数のデータ点を使用した集計が可能になります。収集されたデータは最長で 70 日間 DBMS 内に格納できます。バックアップおよび復元機能により、圧縮されたバックアップ形式でデータを保存できます。システムまたはディスクの破損後にデータベースを復元する必要がある場合は、保存済みのデータを使用できます。

- **BI サーバー**

  BI サーバーにより、定義済みのレポート テンプレートを使用して、DBMS で利用可能なデータに基づく、洞察力に富んだ Web ベースのレポートを作成できるようになります。BI サーバーにより、デフォルトではないアドホック クエリおよびバックグラウンド レポートのスケジュールを設計および保存できます。BI Server Portal で定期レポートを発行できます。また、定期レポートを電子メールで送信するように BI サーバーを設定することもできます。

- 拡張パック

  拡張パックは、さまざまなソースから収集されたデータを使用してレポートを作成するためのルールおよび定義を提供します。デフォルトで NPS に付属しているすぐに利用可能な拡張パックである自己診断拡張パックは、NPS のさまざまなコンポーネントおよびプロセスの稼働状態とパフォーマンスを示すレポートを表示するのに役立ちます。

インストールの概要

NPS は、NNMi 管理サーバーまたは専用のスタンドアロン サーバーにインストールできます。『*Network Performance Server 対応マトリックス*』ドキュメントに記載されているサイジングのガイドラインに基づいて、要件に適合するオプションを選択できます。

➤ **iSPI for Performance** (8.00/8.01/8.11) をインストールして実行しているシステムには、NPS をインストールしないでください。このようなシステムに NPS をインストールする場合は、iSPI for Performance を完全に削除し、システムを再起動してからインストール手順を開始してください。

NPS を使用する場合は、iSPI for Performance (8.00/8.01/8.11) のインスタンスで設定済みの NNMi 管理サーバーを使用しないでください。ただし、iSPI Performance for Metrics 8.13 から NPS/iSPI Performance for Metrics 9.00 へのアップグレードは可能です。

NNMi 管理サーバーへのインストール

NPS を NNMi 管理サーバーにインストールする場合、インストーラ プログラムを実行します。この状況でのインストール プロセスは比較的簡単です。

インストーラによって、iSPI Performance for Metrics のインストール オプションが提供されます。NPS のインストール中に iSPI Performance for Metrics のインストールをキャンセルすることもできます。また、必要であれば、後から NPS システムに iSPI Performance for Metrics をインストールすることもできます。

専用サーバーへのインストール

インストーラ プログラムの実行に加え、このインストール オプションでは、次のユーティリティを使用して追加の設定手順を実行する必要があります。

- 有効化スクリプト

  NNMi 管理サーバーで使用できる有効化スクリプト (NNMi インストーラによってシステムに配置される) は、NNMi と NPS 間の通信を促進します。

- **Configuration Utility**

  NPS のインストール プロセスにより、Configuration Utility がシステムに導入されます。Configuration Utility により、NPS プロセスと NNMi 管理サーバーとの円滑な通信を可能にする情報を指定できるようになります。

追加情報について

追加情報については、次の HP ソースを参照してください。

- *Network Performance Server 9.00 オンライン ヘルプ*
  - トラブルシューティングのヒント
  - NPS ユーティリティ
  - レポートの説明とユースケース シナリオ
- *HP Network Node Manager i Software 9.00 デプロイメント リファレンス*
- *HP Network Node Manager i Software 9.00 リリース ノート*
- *HP Network Node Manager i Software 9.00 対応マトリックス*

ドキュメントの表記規則

NPS のドキュメントでは、次の表記規則を使用します。

表 1　　NPS ドキュメントの表記規則

記号	意味
%nnminstalldir%	*Windows のみ。*NNMi アプリケーション ディレクトリの環境変数です。この値は、NNMi インストーラにより自動的に生成されます。NNMi (Windows) 管理サーバーに NPS をインストールする場合、NPS のすべてのアプリケーション ファイルがこのディレクトリに配置されます。
%nnmdatadir%	*Windows のみ。*NNMi データ ディレクトリの環境変数です。この値は、NNMi インストーラにより自動的に生成されます。NNMi (Windows) 管理サーバーに NPS をインストールする場合、NPS のすべてのデータおよび設定ファイルはこのディレクトリに配置されます。
<Install_Dir>	*Windows のみ。*NPS アプリケーション ディレクトリ。NNMi 管理サーバーに NPS をインストールする場合、NPS インストーラは *%nnminstalldir%* をアプリケーション ディレクトリとして使用します。
<Data_Dir>	*Windows のみ。*NPS データ ディレクトリ。 このディレクトリには、NPS で使用するすべての設定ファイルとデータ ファイルが含まれます。 NNMi 管理サーバーに NPS をインストールする場合、NPS インストーラは *%nnmdatadir%* をデータ ディレクトリとして使用します。

Linux では、必要なファイルが NPS インストーラにより次のディレクトリに直接インストールされます。

- **アプリケーション ファイル：**`/opt/OV`
- **データ ファイルおよび設定ファイル：**`/var/opt/OV`

2 前提条件とプランニング

インストールを開始する前に、すべての前提条件が満たされていることを確認してください。要件を評価して、環境に最も適したインストール オプションを指定します。次に、インストール プランを段階的に作成できます。

前提条件

NPS インストーラにより、次の前提条件が満たされているかどうか確認するためのチェックが実行されます。

- **プライマリ ドメイン名システム (DNS) サフィックス**

  NPS をインストールするシステムには、プライマリ DNS サフィックスが設定されている必要があります。また、システムは、完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用してネットワークで到達可能である必要があります。

- **ポートが利用可能であること**

  NPS では、ポート 9300、9301、9302、9303、および 9304 を使用して異なるプロセスを実行します。インストール前に、これらのポートが空いていることを確認してください。システムで使用されているポートを確認するには、**`netstat`** コマンドを実行します。

また、次のアプリケーションと変数をシステムから削除してください。

- **Cygwin**

  Cygwin ソフトウェアがシステムに存在しないことを確認してください。

- **JAVA_HOME**

  サードパーティ製の Java Runtime Environment (JRE) がある場合、サードパーティ製の JRE が NPS に付属の組み込み JRE と互換性がないと、インストール エラーやランタイム エラーが発生することがあります。これらのエラーを回避するには、JAVA_HOME 環境変数がシステムに設定されて*いない*ことを確認します。

インストールのプランニング

インストール プランでは、インストール プロセスのための準備を行い、インストールの完了に必要なすべての情報を収集できます。要件を確認してインストール オプション (管理サーバーまたは専用サーバーへのインストール) を確定した後に、インストールのプランを作成します。

NNMi のバージョン

NPS 9.00 は、NNMi 9.00 でのみ使用できます。NNMi を 9.00 にアップグレードしてから、NPS をインストールしてください。

NNMi のバージョンを確認するには、次の手順に従います。

1 NNMi コンソールにログオンします。

2 **[ヘルプ]** → **[HP Network Node Manager i Software について]** をクリックします。

3 バージョンが 9.00 であることを確認します。

プラットフォームの組み合わせ

専用サーバーにこの製品をインストールする場合、NPS と管理サーバーのプラットフォームの組み合わせがサポートされていることを確認してください。

次のオペレーティング システムのいずれかで動作している NNMi 管理サーバーを使用してください。

- Windows
- Linux
- HP-UX
- Solaris

表 2 プラットフォームの組み合わせ

NPS メディア	サポートされる **NNMi** プラットフォーム
Windows	Windows
	Linux
	HP-UX
	Solaris

ファイル共有メカニズム

NPS を専用サーバーにインストールする場合、NPS と NNMi 管理サーバー間のファイル共有メカニズムを有効にする必要があります。

インストールの最後に、次のいずれかのファイル共有技術がプラットフォームの組み合わせに応じて有効になります。

表 3 **NNMi** および **NPS** で使用されるファイル共有技術

NNMi 管理サーバー	**NPS**	ファイル共有技術
Windows	Windows	Windows ネットワーク共有
Linux、HP-UX、または Solaris	Windows	Server Message Block (SMB)

Windows ネットワーク共有と SMB 共有では、十分な権限のあるユーザー アカウントが必要です。有効化スクリプトを利用して、ユーザー アカウントを作成できます。

Samba ソフトウェアを使用したファイル共有

SMB 共有を使用するには、Samba ソフトウェア (オペレーティング システムに付属) が NNMi 管理サーバーにインストールされている必要があります。

SMB 共有は、次のシナリオでは動作しない場合があります。

- **Security-Enhanced Linux (SELinux) で NNMi 管理サーバーが実行されている。**
- **サーバーまたはネットワークでファイアウォールが実行されている。**

Security-Enhanced Linux (SELinux) で NNMi 管理サーバーが実行されている場合。SMB 共有を使用するには、セキュリティ ポリシーまたはファイアウォール設定で、SMB トラフィックに対する例外を設定する必要があります。

ドメイン名

NPS を専用サーバーにインストールする場合、NNMi 管理サーバーと専用サーバーのドメイン名が同じである必要があります。

専用サーバーと NNMi 管理サーバーが、たとえば、hp.com などの同じ DNS ドメインに属していることを確認します。異なるサブドメイン内のメンバーシップも許可されますが、親ドメインは同一である必要があります。たとえば、次のシステムは NNMi 管理サーバーおよび NPS システムとして使用できます。

- nnm.hp.com
- iSPI.hp.com

インストール前のチェックリスト

インストール前のチェックリストには、13 ページの表 4 が含まれ、インストール前のすべての作業が完了していることを確認する上で便利です。

表 4　　インストール前のチェックリスト

作業	参照ドキュメント / トピック	チェック欄 (はい / いいえ)
	Network Performance Server 対応マトリックス	
iSPI for Performance (8.00/8.01/8.11) が、NPS をインストールするシステムに存在していないことを確認する。		
NNMi のバージョンが 9.00 であることを確認する。		
NNMi が iSPI for Performance (8.00/8.01/8.11) のインスタンスで設定されていないことを確認する。		

表 4　　インストール前のチェックリスト

作業	参照ドキュメント / トピック	チェック欄 (はい / いいえ)
製品をインストールするシステムがシステム要件を満たしていることを確認する。	*Network Performance Server 対応マトリックス*	
製品をインストールするシステムが前提条件を満たしていることを確認する。	11 ページの「前提条件」	
専用サーバーへのインストールのみ : サポートされるプラットフォームの組み合わせを選択していることを確認する。	12 ページの「プラットフォームの組み合わせ」	
専用サーバーへのインストールのみ : 管理サーバーと専用サーバーが同じ DNS ドメインに属していることを確認する。専用サーバーの FQDN を書き留めます。	13 ページの「ドメイン名」	
専用サーバーへのインストールのみ : Linux、HP-UX、または Solaris で実行している NNMi 管理サーバーを使用する場合、管理サーバーに Samba ソフトウェアがインストールされていることを確認する。	13 ページの「Samba ソフトウェアを使用したファイル共有」	
専用サーバーへのインストールのみ : セキュリティが有効な Linux を NNMi 管理サーバーとしてお使いになりたい場合は、SELinux 管理サーバー上の SMB トラフィックを例外に設定したセキュリティ ポリシーを作成するようにしてください。	12 ページの「プラットフォームの組み合わせ」	
専用サーバーへのインストールのみ: Linux 管理サーバーを使用する場合で、ファイアウォールがサーバーまたはネットワーク上に構築されている場合は、SMB を例外に設定したファイアウォール設定に変更するようにしてください。		

表 4 で指定されているすべての作業を完了したら、インストール手順を開始してください。

シングル サインオン

NPS をインストールすると、シングル サインオン (SSO) として知られるセキュリティ メカニズムが有効になります。SSO を使用すると、NPS は、NNMi コンソールが認識するのと同じユーザー名およびパスワードを認識できるようになります。SSO が有効になると、NNMi にすでにログインしているユーザーは、再度ログオンすることなく NNMi から iSPI レポートに移動できます。

SSO が機能するには、NPS および NNMi が同じドメイン名を共有し、NNMi を起動する URL に、NNMi の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を含める必要があります。ブラウザで、ユーザーが修飾されていないホスト名を使用する URL に接続すると、SSO サーブレットによりエラー ページが表示され、NNMi URL の完全修飾ホスト名を使用してレポートを起動するよう要求されます。

NNMi と NPS が同じサーバーにインストールされ、NNMi が FQDN でまだ設定されていない場合、URL で NNMi の IP アドレスを使用することで、NNMi からレポートに移動するときにログオン ウィンドウやエラー メッセージが再度表示されることはなくなります。

➤ FQDN ではなく NNMi 管理サーバーの IP アドレスを使用する場合、インストール時に適宜 NNMi を設定するか、または **nnmsetofficialfqdn.ovpl** <*ipaddress*> コマンドを使用して NNMi の FQDN を IP アドレスに設定する必要があります。

3 NNMi 管理サーバーへのインストール

NPS を専用サーバーにインストールする場合は、この章をスキップして 23 ページの「専用サーバーへのインストール」に移動してください。

インストール プロセスを開始する前に、サーバーでバージョン 9.00 の NNMi が実行されていることを確認してください。

HP が配布する DVD に NPS がない場合は、HP から ISO イメージをダウンロードできます。ファイルをダウンロードしたら、ドライブにイメージをマウントするか、DVD を作成します。CD を直接作成するには、ISO イメージ ファイルを作成するように設計されているソフトウェアをインストールする必要があります。

NPS のインストール

NPS をインストールするには、次の手順に従います。

1 管理者権限で管理サーバーにログオンします。

2 DVD ドライブに NPS インストール メディアを挿入します。

   メディア ルートから、setup.exe ファイルを実行します。インストール ウィザードが開きます。

   [アプリケーションの要件チェックの警告] ダイアログ ボックスが表示された場合、警告メッセージを確認し、適切な措置を行い **[続行]** をクリックします。

3 [はじめに] ページで、**[次へ]** をクリックします。[ライセンス契約] ページが開きます。

4 [ライセンス契約] ページで、**[ライセンス契約の条項に同意します]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。[機能の選択] ページが開きます。このページには、iSPI Performance for Metrics を無効にしたまま NPS をインストールするオプションが表示されます。

5 [機能の選択] ページで、iSPI Performance for Metrics を使用する場合は、[HP NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオンにします。インストーラで [HP NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオフにすると、システムに iSPI Performance for Metrics がインストールされません。

6 **[次へ]** をクリックします。インストーラ プログラムがシステム チェック プロセスを開始して、システム要件を満たしているかどうかを確認します。

7 インストール チェックに成功したら、**[次へ]** をクリックします。[プレインストールの概要] ページが開きます。

8 [プレインストールの概要] ページで、**[インストール]** をクリックします。インストール プロセスが開始されます。

9 インストール プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックします。

高信頼性 (HA) クラスタへの NPS のインストール

高信頼性 (HA) クラスタに NNMi をインストールすると、NPS をアドオン製品として NNMi 管理サーバーにインストールおよび設定できます。HA クラスタに NPS をインストールするには、次の手順に従います。

Windows Server 2003 システムで NPS を使用する場合、Windows Server 2003 Resource Kit Tools が HA ノードごとにインストールされていることを確認します。

1 アクティブ ノードで次のコマンドを実行し、NNMi サービスがすべて実行されていることを確認します。

ovstatus -c

2 アクティブ ノードで、17 ページの「NPS のインストール」の手順に従って NPS をインストールします。

3 **stopALL.pl** コマンドを実行して NPS を停止します。

4 Windows Server 2008 を使用している場合、アクティブ ノードで次の手順に従います。

a **[スタート] > [管理ツール] > [サービス]** に移動します。

b [サービス] ウィンドウで、**[NNM iSPI Performance ETL Server]** を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。

c デフォルトの [ログオン] 設定 (ローカル システム) を [アカウント] に変更し、使用中の管理者ユーザーの資格情報を指定します。

5 アクティブ ノードで次のコマンドを実行します。

Windows の場合

*%nnminstalldir%***\misc\nnm\ha\nnmhaconfigure.ovpl NNM -addon PerfSPIHA**

nnmhaconfigure.ovpl コマンドはインタラクティブ コマンドで、HA 環境に関する詳細を指定する必要があります。nnmhaconfigure.ovpl コマンドの詳細については、*『Network Node Manager i Software 9.00 デプロイメント リファレンス』*を参照してください。

6 設定を確認します。

次のコマンドを実行します。

%nnminstalldir%\misc\nnm\ha\nnmhaclusterinfo.ovpl -config NNM -get NNM_ADD_ON_PRODUCTS

PerfSPIHA を参照してください。

7 パッシブ ノードごとに、17 ページの「NPS のインストール」の手順に従って NPS をインストールします。

8 **stopALL.pl** コマンドを実行して NPS を停止します。

9 Windows Server 2008 を使用している場合、パッシブ ノードごとに次の手順に従います。

a **[スタート] > [管理ツール] > [サービス]** に移動します。

b [サービス] ウィンドウで、**[NNM iSPI Performance ETL Server]** を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。

c デフォルトの [ログオン] 設定 (ローカル システム) を [アカウント] に変更し、使用中の管理者ユーザーの資格情報を指定します。

10 パッシブ ノードごとに次のコマンドを実行します。

Windows の場合

*%nnminstalldir%***misc\nnm\ha\nnmhaconfigure.ovpl NNM -addon PerfSPIHA**

nnmhaconfigure.ovpl コマンドでは、パッシブ ノードでコマンドを実行するときに、HA リソース グループ名を指定する必要があります。nnmhaconfigure.ovpl コマンドの詳細については、『*Network Node Manager i Software 9.00 デプロイメント リファレンス*』を参照してください。

11 設定を確認します。

パッシブ ノードごとに次のコマンドを実行します。

%nnminstalldir%\misc\nnm\ha\nnmhaclusterinfo.ovpl -config NNM -get NNM_ADD_ON_PRODUCTS

カスタム収集拡張パックを作成した場合は、さらに次のタスクを実行します。

1 アクティブ ノードで、次のディレクトリに移動します。

%nnminstalldir%\nonOV\cognos\c8\webapps\PerfSpi\WEB-INF\classes\com\hp\ov\perfspi

2 ディレクトリで使用可能なプロパティ ファイル (拡張子が .properties のファイル) をすべてコピーし、それらのファイルをパッシブ ノードごとに同じディレクトリに転送します。

iSPI Performance for Metrics のインストール

NPS のインストール時に iSPI Performance for Metrics をインストールすることを選択した場合、このセクションをスキップします。

インストール時に iSPI Performance for Metrics をインストールしないことを選択した場合、後からインストールできます。iSPI Performance for Metrics をインストールするには、次の手順に従います。

1 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 NPS メディアから、setup.exe ファイルを実行します。

3 [メンテナンスの選択] ページで [修正] を選択します。

4 画面上の指示に従います。[機能の選択] ページで [HP NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオンにします。

インストーラにより、システムに iSPI Performance for Metrics がインストールされます。

または、%nnminstalldir%\NNMPerformanceSPI\bin ディレクトリに移動してから、次のコマンドを実行することもできます。

metricsExtensionPacks.ovpl install

HA クラスタに NNMi と NPS がインストールされている場合、アクティブ ノードでのみ前述の手順を実行します。パッシブ ノードごとに、次のタスクを実行します。

1 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 `%nnminstalldir%\bin` ディレクトリから、有効化スクリプトを実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **Y** と答えます。

   `iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？`

3 アクティブ ノードで、`%nnminstalldir%\nonOV\cognos\c8\webapps\PerfSpi\WEB-INF\classes\com\hp\ov\perfspi` ディレクトリから、プロパティ ファイル (拡張子が `.properties` のファイル) をすべてコピーし、それらのファイルをパッシブ ノードの同じディレクトリに転送します。

iSPI Performance for Metrics の無効化

他の iSPI Performance 製品で NPS を使用して iSPI Performance for Metrics を使用しない場合は、NPS を削除せずに iSPI Performance for Metrics を無効にすることができます。

iSPI Performance for Metrics を無効にするには、次の手順に従います。

1 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 NPS メディアから、`setup.exe` ファイルを実行します。

3 [メンテナンスの選択] ページで [修正] を選択します。

4 画面上の指示に従います。[機能の選択] ページで [HP NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオフにします。

   インストーラにより、システムで iSPI Performance for Metrics が無効になります。

または、%nnminstalldir%\NNMPerformanceSPI\bin ディレクトリに移動してから、次のコマンドを実行することもできます。

```
metricsExtensionPacks.ovpl uninstall
```

HA クラスタに NNMi と NPS がインストールされている場合、アクティブ ノードでのみ前述の手順を実行します。パッシブ ノードごとに、次のタスクを実行します。

1 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 `%nnminstalldir%\bin` ディレクトリから、有効化スクリプトを実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **N** と答えます。

   `iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？`

NPS の削除

管理サーバーから NPS を削除するには、次の手順に従います。

さまざまな iSPI Performance 製品で作成されたレポートを引き続き使用する場合は、NPS を削除しないでください。環境内で NPS が使用できないと、レポートを使用できません。

1 管理者権限で管理サーバーにログオンします。

2 NNMi が実行されていることを確認します。

3 [スタート] メニューから、**[すべてのプログラム]** → **[HP]** → **[NNM iSPI Performance]** → **[アンインストール]** をクリックしてください。ウィザードが開きます。

   [アプリケーションの要件チェックの警告] ダイアログ ボックスが表示された場合、警告メッセージを確認し、適切な措置を行い **[続行]** をクリックします。

4 ようこそページが開きます。**[OK]** をクリックします。

5 [アプリケーションのメンテナンス] ページで、**[アンインストール]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。[プレアンインストールの概要] ページが開きます。

6 [プレアンインストールの概要] ページで、**[アンインストール]** をクリックします。プログラムによってシステムからの NPS の削除が開始されます。

7 NPS を完全に削除されたら、**[完了]** をクリックします。この削除プロセスでは、NPS のすべてのコンポーネントがシステムから削除されます。

HA クラスタからの NPS の削除

HA クラスタから NPS を削除するには、次のタスクを実行します。

タスク 1: パッシブ ノードから NPS を削除する

パッシブ ノードごとに、次の手順に従います。

1 管理者権限でパッシブ ノードにログオンします。

2 次のコマンドを実行して、パッシブ NNMi 管理サーバーで NPS の HA 設定を無効にします。

   *%nnminstalldir%***misc\nnm\ha\nnmhaunconfigure.ovpl NNM -addon PerfSPIHA**

3 すべての NPS プロセスを停止するために、以下のコマンドを実行してください。

   %nnminstalldir%\NNMPerformanceSPI\bin**stopALL.ovpl**

4 21 ページの「NPS の削除」の指示に従って、ノードから NPS を削除します。

タスク 2: アクティブ ノードから NPS を削除する

1 管理者権限でアクティブ ノードにログオンします。

2 次のコマンドを実行して、アクティブ NNMi 管理サーバーで NPS の HA 設定を無効にします。

   *%nnminstalldir%***misc\nnm\ha\nnmhaunconfigure.ovpl NNM -addon PerfSPIHA**

3 すべての NPS プロセスを停止するために、以下のコマンドを実行してください。

%nnminstalldir%\NNMPerformanceSPI\bin**stopALL.ovpl**

4 21 ページの「NPS の削除」の指示に従って、アクティブ ノードから NPS を削除します。

4 専用サーバーへのインストール

NPS を専用サーバーにインストールする場合、最初に NNMi 管理サーバーで有効化スクリプトを実行し、次に専用サーバーでインストーラ プログラムを実行する必要があります。

HP が配布する DVD に NPS がない場合は、HP から ISO イメージをダウンロードできます。ファイルをダウンロードしたら、ドライブにイメージをマウントするか、DVD を作成します。CD を直接作成するには、ISO イメージ ファイルを作成するように設計されているソフトウェアをインストールする必要があります。

有効化 スクリプトの実行

専用サーバーへのインストールを開始する前に、有効化スクリプトを NNMi 管理サーバーで実行する必要があります。NNMi のバージョンは 9.00 である必要があります。有効化スクリプトは、NNMi インストーラにより管理サーバーに配置されています。

Windows 管理サーバーでの実行

Windows NNMi 管理サーバーを使用する場合、次の手順に従います。

1 管理者権限で MMNi 管理サーバーにログオンします。

2 次の場所に移動します。

```
%nnminstalldir%\bin
```

3 `nnmenableperfspi.ovpl` スクリプトを実行します。有効化スクリプトが起動し、インタラクティブ モードで動作します。スクリプトに、次のメッセージが表示されます。

```
iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？
```

4 **Y** と入力して **ENTER** キーを押します。

> **N** を選択した場合、iSPI Performance for Metrics の拡張パックは無効にされたままになります (iSPI Performance for Metrics 8.13 をバージョン 9.00 にアップグレードしている間も無効のままです)。

スクリプトに、次のメッセージが表示されます：

開始しますか ？

5 **Y** と入力して **ENTER** キーを押します。スクリプトによって、NNMi が実装されているローカル システムに NPS をインストールするかどうかを尋ねられます。

6 **N** と入力して **ENTER** キーを押します。スクリプトにより、NPS をインストールするシステムの FQDN の入力を求められます。

7 FQDN を入力して **ENTER** キーを押します。

> FQDN のみを使用し、IP アドレスは使用しないでください。NPS を HA クラスタにインストールして設定する場合、クラスタの仮想ホスト名を指定して、NPS HA リソース グループを設定して開始した後にこのスクリプトを実行することを確認してください。

スクリプトに、次のメッセージが表示されます。

`iSPI のデフォルトのポートは 9300 です。`

このポートを使用する場合は `return` キーを押します。

8 **ENTER** キーを押します。スクリプトによって、システムに NPS 共有を追加するかどうかを尋ねられます。

9 **Y** と入力します。スクリプトにより、次の場所に共有が作成されます。

`%nnmdatadir%\shared\perfSpi`

NPS は、専用サーバーからこの場所にアクセスして NNMi によって収集されたデータを取得します。

10 スクリプトによって、新しいユーザーのユーザー名の入力を求められます。このユーザーは、NNMi 管理サーバーに作成されます。NPS はこのユーザー名を使用して共有場所にアクセスします。ユーザー名と独自のパスワードをプロンプトに入力します。選択したユーザー名とパスワードは、NNMi 管理サーバーおよび NPS システムで、実質的にパスワードの強度に関するポリシーを満たしている必要があります。

> このプロンプトに入力したユーザー名とパスワードを書き留めます。このユーザーに関する詳細を、専用サーバーの NPS でも指定する必要があります。

11 システムに既存の共有がある場合、スクリプトに次のメッセージが表示されます。

`PerfSpi 共有はすでに作成されています。`

`削除してから、再作成しますか？`

Y と入力します。スクリプトにより共有が削除され、新しく作成されたユーザー用の共有が再作成されます。

12 有効化スクリプトが停止します。スクリプトのサマリに、共有パス (NPS がアクセスする) が次の形式で表示されます。

`\\<FQDN>\PerfSpi`

この場所を書き留めておき、今後まったく同じ形式で専用サーバーの NPS で使用します。

管理サーバーで実行中に、スクリプトによって次のタスクが実行されます。

- 選択に応じて、iSPI Performance for Metrics のインスタントオン ライセンスを有効にします。
- **[レポート - レポート メニュー]** という新しい項目を NNMi コンソールの [アクション] メニューに追加する。
- 管理サーバーで場所を共有する。
- 管理サーバーで新しいユーザーを作成する。
- NPS のシングル サインオン セキュリティを有効にする。

Linux、HP-UX、または Solaris 管理サーバーでの実行

Linux、HP-UX、または Solaris 管理サーバーで有効化スクリプトを実行するには、次の手順に従います。

1 ルート権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 次の場所に移動します。

`/opt/OV/bin`

3 `nnmenableperfspi.ovpl` スクリプトを実行します。有効化スクリプトが起動し、インタラクティブ モードで動作します。スクリプトに、次のメッセージが表示されます。

`iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？`

4 **Y** と入力して **ENTER** キーを押します。

> **N** を選択すると、(iSPI Performance for Metrics 8.13 から 9.00 へのアップグレードする場合でも) iSPI Performance for Metrics の拡張パックが無効のままになります。

スクリプトに、次のメッセージが表示されます。

開始しますか？

5 **Y** と入力して **ENTER** キーを押します。スクリプトによって、NNMi が実装されているローカル システムに NPS をインストールするかどうかを尋ねられます。

6 **N** と入力して **ENTER** キーを押します。スクリプトにより、NPS をインストールするシステムの FQDN の入力を求められます。

7 FQDN を入力して **ENTER** キーを押します。

> FQDN のみを使用し、IP アドレスは使用しないでください。NPS を HA クラスタにインストールして設定する場合、クラスタの仮想ホスト名を指定して、NPS HA リソース グループを設定して開始した後にこのスクリプトを実行することを確認してください。

スクリプトに、次のメッセージが表示されます。

`iSPI のデフォルトのポートは 9300 です。`

このポートを使用する場合は `return` キーを押します。

8 **ENTER** キーを押します。スクリプトによって、管理サーバーからドライブ スペースを共有するように要求されます。次のファイル共有オプションを選択します。

Samba 共有：Windows NPS メディアを使用しているため、このオプションを選択します。

9 スクリプトにより、次の場所に共有が作成されます。

`/var/opt/OV/shared/perfSpi`

NPS は、専用サーバーからこの場所にアクセスして NNMi によって収集されたデータを取得します。

10 スクリプトによって、新しいユーザー名 (NNMi ユーザーではなくシステム ユーザー) の入力を求められます。このユーザーは、NNMi 管理サーバーに作成されます。NPS は、このユーザー名を使用して共有場所にアクセスします。ユーザー名と独自のパスワードをプロン

プトに入力します。選択したユーザー名とパスワードは、NNMi 管理サーバーおよび NPS システムで、実質的にパスワードの強度に関するポリシーを満たしている必要があります。

このプロンプトに入力したユーザー名とパスワードを書き留めます。このユーザーに関する詳細を、専用サーバーの NPS でも指定する必要があります。

11 有効化スクリプトは、NPS のシングル サインオン セキュリティを有効にします。

12 有効化スクリプトが停止します。[次のステップ] セクションに共有パス (NPS がアクセスする) が表示されます。

この場所を書き留めておき、まったく同じ形式でこれを専用サーバーの NPS で使用します。

管理サーバーで実行中に、スクリプトによって次のタスクが実行されます。

- 選択に応じて、iSPI Performance for Metrics のインスタントオン ライセンスを有効にします。
- **[レポート - レポート メニュー]** という新しい項目を NNMi コンソールの [アクション] メニューに追加する。
- 管理サーバーで場所を共有する。
- 管理サーバーで新しいユーザーを作成する。
- NPS のシングル サインオン セキュリティを有効にする。

NPS のインストール

専用サーバーでこの手順を実行する必要があります。NPS のインストーラ プログラムを実行するには、次の手順に従います。

1 管理者権限で専用サーバーにログオンします。

2 DVD ドライブに NPS インストール メディアを挿入します。

メディア ルートから、`setup.exe` ファイルを実行します。
インストール ウィザードが開きます。

[アプリケーションの要件チェックの警告] ダイアログ ボックスが表示された場合、警告メッセージを確認し、適切な措置を行い **[続行]** をクリックします。[ライセンス契約] ページが開きます。

3 [ライセンス契約] ページで、**[ライセンス契約の条項に同意します]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。[機能の選択] ページが開きます。このページには、iSPI Performance for Metrics を無効にしたまま NPS をインストールするオプションが表示されます。

4 [機能の選択] ページで、iSPI Performance for Metrics を使用する場合は、[HP NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオンにします。インストーラで [HP NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオフにすると、システムで iSPI Performance for Metrics が無効になります。

[次へ] をクリックします。

[アプリケーションおよびデータ フォルダの選択] ページが開きます。

5 [アプリケーションおよびデータ フォルダの選択] ページで、必要に応じてこれらのフォルダのデフォルト以外の場所を指定できます。

デフォルトでは、インストーラ プログラムによってこれらのフィールドが次の場所に設定されます。

- **アプリケーション フォルダ :** `C:\Program Files (x86)\HP\HP BTO Software`
- **データ フォルダ :**
  - Windows 2003 の場合 :

    `C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO Software`
  - Windows 2008 の場合 :

    `C:\ProgramData\HP\HP BTO Software`

6 **[次へ]** をクリックします。

7 インストーラ プログラムがシステム チェック プロセスを開始して、システム要件を満たしているかどうかを確認します。

8 インストール チェックに成功したら、**[次へ]** をクリックします。[プレインストールの概要] ページが開きます。

9 [プレインストールの概要] ページで、**[インストール]** をクリックします。インストール プロセスが開始されます。

10 インストール プロセスの最後に、Configuration Utility が開きます。Configuration Utility で、次の手順に従います。

   a [指定ユーザー アカウント] オプションを選択します。

   b 有効化スクリプトによって作成されたユーザー名とパスワードを指定します。

   c 有効化スクリプトによって NNMi 管理サーバーに作成された共有場所へのパスを指定します。

   > 有効化スクリプトのサマリに表示された形式とまったく同じ形式を使用してください。

   d データ アーカイブの保有期間の詳細を指定します。システム リソースに応じて、このパラメータの値を選択できます。

   e **[適用]** をクリックします。

   f **[開始]** をクリックして、専用サーバーの NPS に必要なプロセスを開始します。

11 インストール プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックします。

iSPI Performance for Metrics のインストール

NPS のインストール時に iSPI Performance for Metrics をインストールすることを選択した場合、このセクションをスキップします。

インストール時に iSPI Performance for Metrics をインストールしないことを選択した場合、後からインストールできます。iSPI Performance for Metrics をインストールするには、次の手順に従います。

1 ルートまたは管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 *%nnminstalldir%*`\bin` または `/opt/OV/bin` ディレクトリから、有効化スクリプト (`nnmenableperfspi.ovpl`) を実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **`Y`** と答えます。

   `iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか ?`

3 管理者権限で NPS システムにログオンします。

4 NPS メディアから、setup.exe ファイルを実行します。

5 [メンテナンスの選択] ページで [修正] を選択します。

6 画面上の指示に従います。[機能の選択] ページで [HP NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオンにします。

インストーラにより、システムに iSPI Performance for Metrics がインストールされます。

または、NPS システムの <Install_Dir>\NNMPerformanceSPI\bin ディレクトリに移動してから、次のコマンドを実行することもできます。

```
metricsExtensionPacks.ovpl install
```

HA クラスタに NNMi と NPS がインストールされている場合、アクティブ ノードでのみ前述の手順を実行します。パッシブ ノードごとに、次のタスクを実行します。

1 ルートまたは管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 /opt/OV/bin または %nnminstalldir%\bin ディレクトリから、有効化スクリプトを実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **Y** と答えます。

iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？

3 アクティブ ノードで、<Install_Dir>\nonOV\cognos\c8\webapps\PerfSpi\WEB-INF\classes\com\hp\ov\perfspi ディレクトリから、プロパティ ファイル (拡張子が .properties のファイル) をすべてコピーし、それらのファイルをパッシブ ノードの同じディレクトリに転送します。

iSPI Performance for Metrics の無効化

他の iSPI Performance 製品で NPS を使用して iSPI Performance for Metrics を使用しない場合は、NPS を削除せずに iSPI Performance for Metrics を無効にすることができます。

iSPI Performance for Metrics を無効にするには、次の手順に従います。

1 ルートまたは管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 *%nnminstalldir%*\bin または /opt/OV/bin ディレクトリから、有効化スクリプト (nnmenableperfspi.ovpl) を実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **N** と答えます。

iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？

3 管理者権限で NPS メディアにログオンします。

4 NPS メディアから、setup.exe ファイルを実行します。

5 [メンテナンスの選択] ページで [修正] を選択します。

6 画面上の指示に従います。[機能の選択] ページで [HP NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオフにします。

インストーラにより、システムで iSPI Performance for Metrics が無効になります。

または、*<Install_Dir>*\NNMPerformanceSPI\bin ディレクトリに移動してから、次のコマンドを実行することもできます。

```
metricsExtensionPacks.ovpl uninstall
```

HA クラスタに NNMi と NPS がインストールされている場合、アクティブ ノードでのみ前述の手順を実行します。パッシブ ノードごとに、次のタスクを実行します。

1 ルートまたは管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

2 `/opt/OV/bin` または `%nnminstalldir%\bin` ディレクトリから、有効化スクリプトを実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **N** と答えます。

   `iSPI Metrics` 評価ライセンスも有効にしますか？

HA クラスタへの NPS システムのインストール

HA クラスタで実行する専用サーバーに NPS をインストールする場合、次の展開オプションのいずれかを選択できます。

- オプション 1: NPS システムが HA クラスタにある
- オプション 2: NNMi 管理サーバーのみが HA クラスタにある

オプション 1: HA クラスタ内に NPS をインストールします

Windows Server 2003 システムで NPS を使用する場合、Windows Server 2003 Resource Kit Tools が HA ノードごとにインストールされていることを確認します。Windows 2008 システムで NPS を使用する場合、管理者権限を持つドメイン アカウントを使用して NPS をインストールし、HA グループを設定する必要があります。

HA クラスタに NPS のみをインストールする場合、次の手順に従います。

1 NPS をインストールするシステムで HA クラスタを設定します。

2 次のクラスタの詳細を取得します。
   - クラスタの仮想ホスト名。仮想ホスト名は、クラスタの仮想 IP アドレスにマッピングされている必要があります。
   - クラスタの HA リソース グループ
   - 共有ファイル システムのタイプ
   - 共有ファイル システムのファイル システム タイプ
   - 共有ファイル システムのディスク グループ
   - 共有ファイル システムのボリューム グループ
   - NPS 共有ディスクのマウントポイント

3 管理サーバーで有効化スクリプトを実行せずに、26 ページの「NPS のインストール」にある指示に従って、プライマリー ノードに NPS をインストールしますが、サービスは開始しないでください。Configuration Utility のエラーを無視します。

4 Windows Server 2008 を使用している場合、アクティブ ノードで次の手順に従います。
   a **[スタート] > [管理ツール] > [サービス]** に移動します。
   b [サービス] ウィンドウで、**[NNM iSPI Performance ETL Server]** を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。

c デフォルトの [ログオン] 設定 (ローカル システム) を [アカウント] に変更し、使用中の管理者ユーザーの資格情報を指定します。

d 手動で *<data_dir>*\rconfig\NNMPerformanceSPI.cfg ファイルを編集し、次のプロパティを追加します。

```
PRSPI_NNMDIR                    //<nnmhostname>/PerfSpi
```

このインスタンスでは、<nnmhostname> が NNMi 管理サーバーの FQDN です。

5 プライマリー ノードで以下の手順を実行してください。

a 以下のコマンドを実行して、NPS プロセスが実行中でないことを確認します。

<*Install_Dir*>\NNMPerformanceSPI\bin\stopALL.ovpl

b パフォーマンス HA リソース グループ用に、少なくとも 1 つの共有ディスクを含む、ディスク デバイス グループ (および論理ボリューム) を定義します。

c 共有ディスクのディレクトリ マウントポイントを作成します。

d NPS の HA リソース グループを設定するには、次のコマンドを実行します。

<*Install_Dir*>\misc\nnm\ha\nnmhaconfigure.ovpl PerfSPIHA

このコマンドは、手順 2 で取得した詳細を指定するように指示メッセージを表示します。

e 設定を確認します。

次のコマンドを実行します。

<*Install_Dir*>\misc\nnm\ha\nnmhaclusterinfo.ovpl -group *<resource_group>* **-nodes**

ローカル ノードをリストする必要があります。

<Install_Dir>**\misc\nnm\ha\nnmhaclusterinfo.ovpl -config PerfSPIHA -get PerfSPI_HA_CONFIGURED**

コマンドは、YES と表示するはずです。

6 26 ページの「NPS のインストール」の指示に従って、クラスタの各パッシブ ノードに NPS をインストールしますが、サービスは開始しないでください。

7 次のコマンドを実行して、NPS の HA リソース グループをオンラインにします。

<*Install_Dir*>\misc\nnm\ha\nnmhastartrg.ovpl PerfSPIHA <resource_group>

8 NNMi 管理サーバーで有効化スクリプトを実行します (23 ページの「有効化 スクリプトの実行」を参照)。有効化スクリプトの実行中に、NPS クラスタの仮想ホスト名を指定します。

9 Windows Server 2008 を使用している場合、パッシブ ノードごとに次の手順に従います。

a **[スタート] > [管理ツール] > [サービス]** に移動します。

b [サービス] ウィンドウで、**[NNM iSPI Performance ETL Server]** を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。

c デフォルトの [ログオン] 設定 (ローカル システム) を [アカウント] に変更し、使用中の管理者ユーザーの資格情報を指定します。

d 手動で *<data_dir>*\rconfig\NNMPerformanceSPI.cfg ファイルを編集し、次のプロパティを追加します。

```
PRSPI_NNMDIR                    //<nnmhostname>/PerfSpi
```

このインスタンスでは、<nnmhostname> が NNMi 管理サーバーの FQDN です。

10 パッシブ ノードごとに、次のコマンドを実行します。

<*Install_Dir*>\misc\nnm\ha\nnmhaconfigure.ovpl PerfSPIHA

カスタム収集拡張パックを作成した場合は、さらに次のタスクを実行します。

1 アクティブな NPS システムで次のディレクトリに移動します。

```
<Install_Dir>\nonOV\cognos\c8\webapps\PerfSpi\WEB-INF\classes\com\
hp\ov\perfspi
```

2 アクティブ ノードから、ディレクトリにすべての利用可能なプロパティ ファイルをコピーし、各パッシブ NPS システムの同じディレクトリにこれらのファイルを転送します。

オプション 2: NNMi 管理サーバーのみが HA クラスタにある

このシナリオでは、有効化スクリプト (30 ページ 8 の手順) をアクティブな NNMi 管理サーバーで一度、各パッシブ NNMi 管理サーバで一度実行し、26 ページの「NPS のインストール」の指示に従って NPS をインストールしてください。

トラブルシューティングのヒント

Configuration Utility が次のエラー メッセージを表示する。

`FATAL: サービス設定テストに失敗しました`

- *原因 1:*

  ユーザー名またはパスワードが正しくない。

  解決方法 :

  有効化スクリプトで指定したユーザー名とパスワードを必ず指定してください。

- *原因 2:*

  共有パスの形式が正しくない。

  解決方法 :

  必ず正しい共有パスを正しい形式で指定してください。正しいパスを指定するには、次の手順に従います。

  a NNMi 管理サーバーに移動します。

  b 次の場所から有効化スクリプトのログ ファイル `nnmenableperfspi_log.txt` を収集します。*%nnmdatadir%*`\log` or `/var/opt/OV/log`

  c ファイルの終わりの [サマリ] または [次のステップ] セクションで、共有場所の詳細を探します。

  d ログ ファイルから場所をコピーして、Configuration Utility の [パス] フィールドに貼り付けます。

- *原因 3:*

  セキュリティ強化 Linux (SELinux) で実行している NNMi 管理サーバーで、セキュリティ ポリシーが有効になっている。その結果、SMB 共有が動作していない。

  解決方法 :

  SELinux 管理サーバー上のセキュリティ ポリシーを無効にします。

共有ドライブにアクセスできないと Configuration Utility に表示される

原因:

ネットワークのファイアウォール設定により、SMB プロトコルを使用して NPS から共有ファイルにアクセスできない。

解決方法 :

この問題を解決するには、適切なツールを使用して SMB トラフィックの例外を作成する必要があります。

NPS の削除

専用サーバーから NPS を削除するには、次の手順に従います。

NPS を削除すると、iSPI でポーリングしたデータを使用してレポートを生成できなくなります。

1. NNMi が実行されていることを確認します。
2. 管理者またはルート権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。
3. 次の場所に移動します。

   Windows の場合 `%nnminstalldir%\bin`

   UNIX または Linux の場合: `/opt/OV/bin`
4. 無効化スクリプト (`nnmdisableperfspi.ovpl`) を実行します。
5. 管理者権限で専用サーバーにログオンします。
6. [スタート] メニューから、**[すべてのプログラム]** → **[HP]** → **[NNM iSPI Performance]** → **[アンインストール]** をクリックしてください。ウィザードが開きます。

   [アプリケーションの要件チェックの警告] ダイアログ ボックスが開いた場合、警告メッセージを確認し、適切な対処をとり、**[続行]** をクリックします。
7. ようこそページが開きます。**[OK]** をクリックします。
8. [アプリケーションのメンテナンス] ページで、**[アンインストール]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。[プレアンインストールの概要] ページが開きます。
9. [プレアンインストールの概要] ページで、**[アンインストール]** をクリックします。プログラムによってシステムからの NPS の削除が開始されます。
10. NPS を完全に削除されたら、**[完了]** をクリックします。この削除プロセスでは、NPS のすべてのコンポーネントがシステムから削除されます。

HA クラスタからの NPS の削除

HA クラスタから NPS を削除する場合、次のタスクを実行します。

タスク 1: HA ノードの設定を解除する

NPS HA ノードの設定を解除するには、次の手順に従います。

1. パッシブ ノードごとに、次の手順に従います。
   a. 管理者権限でノードにログオンします (HA の設定時に使用したのと同じユーザーを使用します)。

b 次のコマンドを実行します。

<*Install_Dir*>**\misc\nnm\ha\nnmhaunconfigure.ovpl PerfSPIHA** <*resource_group*>

c **stopALL.ovpl** コマンドを実行して、すべての NPS プロセスを停止します。

2 アクティブ ノードで、次の手順に従います。

a 管理者権限でノードにログオンします (HA の設定時に使用したのと同じユーザーを使用します)。

b 次のコマンドを実行します。

<*Install_Dir*>**\misc\nnm\ha\nnmhastoprg.ovpl PerfSPIHA** <*resource_group*>

c 次のコマンドを実行します。

<*Install_Dir*>**\misc\nnm\ha\nnmhaunconfigure.ovpl PerfSPIHA** <resource_group>

d **stopALL.ovpl** コマンドを実行して、すべての NPS プロセスを停止します。

タスク 2: NPS を削除する

32 ページの「NPS の削除」の指示に従って、アクティブ ノードと各パッシブ ノードから NPS を削除します。

5 iSPI Performance for Metrics のアップグレード

iSPI Performance for Metrics のバージョンを 8.13 から 9.00 にアップグレードできます。iSPI Performance for Metrics バージョン 9.00 は NNMi 9.00 でサポートされています。アップグレード前に、NNMi がバージョン 9.00 にアップグレードされていることを確認してください。

NNMi 管理サーバーでのアップグレード

iSPI Performance for Metrics バージョン 8.13 が NNMi 管理サーバーにインストールされている場合、次の手順に従います。

1 NNMi が 9.00 にアップグレードされていることを確認します。

2 管理者権限で管理サーバーにログオンします。

3 すべての前提条件を満たしていることを確認します (11 ページの「前提条件とプランニング」)。

4 17 ページの「NPS のインストール」の指示に従います。

専用サーバーでのアップグレード

iSPI Performance for Metrics バージョン 8.13 が専用サーバーにインストールされている場合、次の手順に従います。

1 NNMi が 9.00 にアップグレードされていることを確認します。

2 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。

3 23 ページの「有効化 スクリプトの実行」の指示に従って、有効化スクリプトを実行します。

4 管理者権限で iSPI Performance for Metrics サーバーにログオンします。

5 すべての前提条件を満たしていることを確認します (11 ページの「前提条件とプランニング」)。

6 26 ページの「NPS のインストール」の指示に従います。

6 NNMi アプリケーション フェイルオーバー

NPS では、アプリケーション フェイルオーバー機能はサポートされていませんが、アプリケーション フェイルオーバーのセットアップ時にインストールされる NNMi 管理サーバーとの互換性はあります。

アプリケーション フェイルオーバーのセットアップ時に NNMi をインストールおよび設定する場合は、NPS を NNMi 管理サーバーではなく専用サーバーにインストールする必要があります。NPS の冗長ソリューションを設定する場合は、NPS を HA クラスタにインストールする必要があります。

NNMi のアプリケーション フェイルオーバーでは、プライマリ NNMi サーバーが失敗した後に直ちにセカンダリ NNMi サーバーが引き継げるようにすることにより、冗長が守られます。アプリケーション フェイルオーバーは、クラスタリング テクノロジ、NNMi から NPS にコピーする必要がある共有証明書、および進行中のファイル システム同期化に依存しています。

アプリケーション フェイルオーバーでは、約 15 分の軽微なサービス遮断が発生しますが、それ以外は透過的です。ユーザーは、フェイルオーバーの発生に気付くことはありません。また、NPS 管理者が実行する特別なタスクはありません。

アプリケーション フェイルオーバーをサポートする NPS の機能は、NPS がクラスタのプライマリ サーバーから取得するファイルによって異なります。NPS がこれらのファイルを検出すると、直ちに 5 分おきに状態変更をチェックすることでプライマリ サーバーの状態のモニタリングを開始します。NPS が状態変更を検出すると、NPS は以下を実行します。

- クラスタにあるどのサーバーが新しいプライマリ サーバーであるかを判断する
- 新しいプライマリ サーバーの共有ディレクトリにデータ収集をリダイレクトする
- 新しいプライマリ サーバーのデータ (メトリックおよびトポロジ ファイル) の収集を開始する

これらのイベントが発生するとすぐに、NPS ユーザーはフェイルオーバーが発生する前と同様に、新しいプライマリ サーバーで NPS から NNMi ビューにリンクできるようになります。

アプリケーション フェイルオーバー

アプリケーション フェイルオーバー クラスタで NNMi を実行している場合、次の手順に従います。

1. 有効化スクリプトを、アクティブな NNMi サーバーで 1 回、クラスタの各スタンバイ サーバーで 1 回ずつ実行します。
2. スタンバイ サーバーで有効化スクリプトを実行するとき、アクティブ サーバーで有効化スクリプトを実行した時に提供したのと同じ応答を提供します。
3. 後で、iSPI Performance for Metrics の恒久ライセンスのインストールを選択する場合、必ず、クラスタのすべてのサーバーに同じライセンスをインストールしてください。

NNM から NPS へのキーストア ファイルのコピー

次の手順に従って NNM から NPS に cluster.keystore 証書をコピーします。

1 NNMi 管理サーバーで次のディレクトリに移動します。

Windows 上の NNMi

`%NnmDataDir%\shared\nnm\conf\nnmcluster\cluster.keystore`

UNIX 上の NNMi

`/var/opt/ov/shared/nnm/conf/nnmcluster/cluster.keystore`

2 前述の場所から NPS システムの次のディレクトリに `cluster.keystore` ファイルをコピーします。

`%NnmDataDir%\NNMPerformanceSPI\nnmappfailover\keystore`

7 ライセンス

恒久ライセンスを取得するには、恒久ライセンスのパスワードを取得してから、Autopass License Management を使用して、ライセンスのパスワードをインストールします。ライセンスのパスワードは、NPS が専用サーバーにインストールされている場合でも、NPS システムではなく NNMi サーバーにインストールします。

iSPI Performance for Metrics 以外の iSPI のライセンスを取得している場合、30 日の評価期間を過ぎると、iSPI Performance for Metrics の機能を使用できなくなります。NPS で iSPI Performance for Metrics の機能を使用するには、iSPI Performance for Metrics のライセンスを別途取得する必要があります。

iSPI 製品に付属のレポート テンプレートは一切変更しないでください (変更したレポート テンプレートはサポートされません)。

iSPI Performance for Metrics の恒久ライセンスの取得

iSPI Performance for Metrics の恒久ライセンスを取得するには、次の手順に従います。

1 次の情報を収集します。
   a HP 製品番号および注文番号 (これらの番号は資格証明書に記載されています)
   b NNMi 管理サーバーの IP アドレス
   c 会社または組織の情報
2 コマンド プロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
%NnmInstallDir%\bin\nnmlicense.ovpl PerfSPI -g
```

3 [Autopass ライセンス管理] ウィンドウが開きます。**[ライセンス パスワード]** ダイアログ ボックスで、**[ライセンスの要求]** をクリックします。
4 ウィンドウの指示に従って、ライセンス パスワードをインストールします。

または、テキスト ファイルで恒久ライセンスを適用するには、次の手順に従います。

1 HP 製品番号および注文番号を取得します (これらの番号は資格証明書に記載されています)。
2 テキスト エディタでテキスト ファイルを開いて、そのテキスト ファイルにライセンスのパスワードを入力します。
3 テキスト ファイルを保存します。
4 NNMi 管理サーバーで次のコマンドを実行します。

```
%NnmInstallDir%\bin\nnmlicense.ovpl PerfSPI -f <license_text_file>
```

iSPI Performance for Metrics の追加ライセンス パスワードの取得

NNM のライセンス構成に関する情報、およびエンタープライズ インストールのライセンス層を追加する方法については、HP 営業担当者または Hewlett-Packard 正規販売店にお問い合わせください。

追加ライセンス パスワードを取得するには、次の HP パスワード配布サービス サイトに移動します。

https://webware.hp.com/welcome.asp

サードパーティ製のソフトウェアに関する制限事項

- BI サーバー ソフトウェアには、次の制限事項が適用されます。
  - 1 回に複数の管理者を指定することはできません。
  - Query Studio ユーザーを同時に 5 人以上指定することはできません。
  - iSPI データ モデルを拡張したり、追加データ ソースを iSPI システムに追加することはできません。
  - iSPI Performance for Metrics のライセンスでは、Report Studio、Analysis Studio、Metric Studio、および Event Studio の機能を使用できません。
- Sybase IQ Software は、NPS の組み込みデータベースとして提供されます。Sybase IQ Software をそれ以外の目的で使用することはできません。

8 はじめに

この章では、以下のトピックについて説明します。

- NPS の起動
- NPS がエラーなしで運用されているかどうかの確認
- パフォーマンス ポーリングのデフォルトの変更
- 例外のしきい値の設定
- BI サーバーのパスワードの変更
- NNMi アプリケーション フェイルオーバーの準備

➤ iSPI Performance for Traffic のみのライセンスを取得している場合、iSPI Performance for Metrics の機能は使用できません。iSPI Performance for Traffic と iSPI Performance for Metrics の機能を組み合わせて使用するには、iSPI Performance for Traffic と iSPI Performance for Metrics の両方のライセンスを個別に取得する必要があります。

NPS レポートの起動

NPS レポートは以下から起動できます。

- NNMi コンソール
- レポート メニュー
- [スタート] メニュー

NNMi コンソールからの起動

1. 次の URL を Web ブラウザ ウィンドウに入力します。

   http://<fully-qualified-domain-name>:<port>/nnm/

   このインスタンスでは、*<fully-qualified-domain-name>* は NNMi 管理サーバーの完全修飾ドメイン名で、*port* は jboss アプリケーション サーバーが NNMi コンソールと通信するのに使用するポートです。
2. NNMi コンソール ログオン ウィンドウが開いたら、ユーザー アカウント名とパスワードを入力して、**[サインイン]** をクリックします。
3. NNMi コンソールが開いたら、**[アクション] > [レポート - レポート メニュー]** の順に選択します。NPS レポート ウィンドウが開きます。

レポート メニューを直接起動する

1. ブラウザで次の URL にアクセスします。

http://<*fully-qualified-domain-name*>:9300

このインスタンスでは、<*fully-qualified-domain-name*> は NPS システムの完全修飾ドメイン名です。

2 NNMi コンソール ログオン ウィンドウが開いたら、ユーザー アカウント名とパスワードを入力して、**[サインイン]** をクリックします。

3 レポート メニューが開きます。このページから任意のレポートを開くことができます。どのレポートからでも、**[リンクの表示]** をクリックしてレポート メニューに移動できます。

[スタート] メニューからの起動

NPS のレポート メニューは、Windows の [スタート] メニューから起動できます。レポート メニューを起動するには、**[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[HP NNM iSPI Performance]** → **[レポート メニュー]** の順にクリックします。

エラーのないインストールの確認

NPS がエラーなしでインストールされていることを確認するには、次のタスクを実行します。

- 作業 1: 42 ページの「アプリケーション ファイルとランタイム ファイルの検索」
- 作業 2: 43 ページの「設定ファイルの検証」

タスク 1: アプリケーション ファイルとランタイム ファイルの検索

NPS ソフトウェアは、静的なアプリケーション ソフトウェア ファイル (バイナリ) と動的なランタイム ファイルで構成されます。静的なアプリケーション ソフトウェアのデフォルト パスは、以下のとおりです。

```
<Install_Dir>\NNMPerformanceSPI
```

NNMPerformanceSPI ディレクトリには、次のフォルダが含まれています。

- `bin`
- `config`
- `Docs`
- `extentionpacks`
- `Installation`
- `java`
- `lib`

動的なランタイム ファイルのデフォルト パスは、次のとおりです。

```
<Data_Dir>\NNMPerfornceSPI
```

NNMPerformanceSPI ディレクトリには、次のフォルダが含まれています。

- `contentstore`
- `database`
- `logs`
- `nnmappfailover`
- `rconfig`

- `PerfSPI_Diagnostics`

タスク 2: 設定ファイルの検証

Configuration Checker は、メインの設定ファイルに有効なエントリが含まれていることを確認します。Configuration Checker を起動するには、以下の手順に従ってください。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP] > [NNM iSPI for Performance] > [Configuration Checker]

すべてが正常の場合、Checker によって次のメッセージが表示されます。

`INFO`: 設定ファイルの確認が正常に完了しました。

NPS を専用システムにインストールした場合、インストール時に作成したユーザー資格情報を指定する必要があります (24 ページ 10 の手順)。

Configuration Utility の使用

以下のパラメータを変更するには、設定ユーティリティを使用します。

- NNM データファイル フォルダへのパス
- NNM サーバー上の共有ドライブにアクセスするのに必要な資格証明
- データ保有

これらの変更を行うには、以下の手順に従います。

1. 設定ユーティリティを起動します。

   [スタート] > [すべてのプログラム] > [HP] > [NNM iSPI for Performance] > [Configuration Utility]

2. **[停止]** をクリックします。(**[停止]** をクリックするとデータ処理およびテーブル作成が停止します)
3. 以下の変更を行います。

   アカウント名の変更

   パスワードの変更

   - アカウント名の変更

     同一システムへのインストールの場合、「ローカル システム」アカウント オプションを使用します。

   - パスワードの変更

     同一システムへのインストールは適用できません。

   - 共有 NNM データファイル ディレクトリへのパスの変更
   - アーカイブ テーブル データのデフォルトの保有期間を変更します。

     このフィールドで指定した期間中、システムに未処理データが保有されます。サマリデータは、常に 70 日間保有されます。

     — デフォルト = 14 日

     — 最大の保有期間 = 70 日

4. **[適用]** をクリックします。
5. **[開始]** をクリックします。

6 **[終了]** をクリックします。

システムを再起動しない限り、変更が読み込まれることはありません。特定の状況 (たとえば、共有ファイル システムの準備が整っていない) では、再起動を遅らせる必要があります。

NPS のトラブルシューティング

NPS の運用に問題がないかを確認するために、次の診断ツールを使用できます。

- 44 ページの「Log File Monitor」
- 44 ページの「Log File Analyzer」
- 45 ページの「診断レポート」

Log File Monitor

Log File Monitor は、Chainsaw です。Chainsaw を使用すると、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、および FATAL メッセージが prspi.log ファイルに届くと、それらをモニタリングできます。perfspi.log ファイルには、昨夜午前 0 時からのすべてのメッセージが含まれます。prspi.log へのパスは次のとおりです。

```
<Data_Dir>\NNMPerformanceSPI\logs\prspi.log
```

NPS がエラーなしで実行されていることを確認するには、次の手順に従います。

1 Log File Monitor を開きます。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP] > [NNM iSPI for Performance] > [Log File Monitor] の順に選択します。

2 ようこそページにはいくつかのタブが含まれます。[メッセージ　インタフェース]　タブ (perfspi.log へのパス) を選択します。このビューには、次の 3 つのペインがあります。

- イベント ペイン - 上部中央
- 詳細イベント ペイン - イベント ペインの下
- ツリー ロガー ペイン - イベント ペインの左

  ツリー ロガー ペインを使用して、イベント ペインのメッセージをフィルタリングできます。

イベント ペインは常に変化します。イベント ペインには prspi.log に到着した最新のメッセージが表示され、詳細イベント ペインにはそのメッセージに関する追加情報が表示されます。

ログ ファイルが切り詰められ、アーカイブされると、Chainsaw がメッセージのスクロールを停止する場合があります。この現象が発生した場合は、Chainsaw を再起動してください。

Log File Analyzer

ログ ファイル アナライザを使用して、以下を表示します。

- それぞれの拡張パッケージ内でプロセスによって生成された警告の日次サマリ
- それぞれの拡張パッケージ内でプロセスによって生成されたエラーの日次サマリ
- それぞれの拡張パッケージ内の選択したプロセスのタイミング データ

以下の手順に従ってください。

1 ログ ファイル アナライザを開きます。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP] > [NNM iSPI for Performance] > [Log File Analyzer] の順に選択します。

2 警告とエラーを確認します。

警告およびエラーのサマリ データは、直前の 2 週間前までをカバーします。最後のサマリは本日をカバーし、不完全なものになります。サマリ データは以下ことを示します。

- 日付
- ある場合は、プロセスごとのエラーの数
- ある場合は、プロセスごとの警告の数

警告は、通常は自己修正する遷移状態、一般的には一時的な不一致を示します。警告メッセージまたはエラー メッセージが表示されたら、テキスト エディタで関連するログファイルを表示することで詳細に調査するといいかもしれません。

3 スクロール ダウンして警告およびエラーのサマリを通過してタイミング データを表示します。タイミング データは、以下を表示します。

- 直前の 2 週間にプロセスが実行された合計回数
- 直前の 2 週間のプロセスごとの平均実行時間
- 標準偏差
- 直前の 2 週間のプロセスごとの最大実行時間
- 実行ごとの処理されたレコードの平均数
- 処理されたレコードの 1 秒あたりの平均数

診断レポート

自己診断拡張パックには、次の 6 つのレポートが含まれます。

- カレンダー
- チャート詳細
- ヒートチャート
- 最も変化した
- 上位 N
- タスク期間上位 10

これらのレポートは、NPS プロセスの期間に関連するトレンドをモニタリングします。レポートの内容についての詳細は、オンライン ヘルプを参照してください。

Diagnostic Collector

Diagnostic Collector 使用して、さまざまなログ ファイルから診断情報を収集できます。診断情報を収集するには、次の手順に従います。

1 管理者権限で NPS システムにログオンします。

2 Diagnostic Collector の起動 :

[スタート] > [全てのプログラム] > [HP] > [NNM iSPI for Performance] > [Diagnostic Collector]

Diagnostic Collector によって、様々なログ ファイルが収集されます。これらのログ ファイルは、`DiagnosticFilesYYYYMMDD.tar.gz` ファイルに組み込まれ、次のディレクトリに配置されます。

%nnmdatadir%\NNMPerformance-SPI\collectDiag

問題の調査中に tar.gz ファイルを HP サポートに送信できます。

パフォーマンス ポーリングのデフォルトの変更

NPS をインストールすると、いくつかのパフォーマンス ポーリングが自動で有効になります。ポーリングの要件がデフォルトとは異なる場合、デフォルトを変更する必要があります。デフォルトの変更は NNMi コンソールのタスクになります。

ノード ループに対するパフォーマンス ポーリングを変更するには、ノード設定フォームを使用します。NNMi コンソールからこのフォームにアクセスするには、次のように選択します。

[ワークスペース] > [設定] > [モニタリングの設定] > [ノードの設定]

パフォーマンス ポーリングのデフォルトを変更するのに支援が必要な場合は、NPS のオンライン ヘルプの「管理」セクションにある次のヘルプ トピックを参照してください。

NNMi のパフォーマンス ポーリングの設定

例外のしきい値の設定

いくつかの NPS レポートは例外をモニタリングしますが、NNMi の中でパフォーマンス メトリックのしきい値が設定されるまで、例外に関するデータはこれらのレポートには含まれません。デフォルトのしきい値はないため、しきい値は自動的に設定されません。しきい値の設定は手動による手順になります。

例外や、しきい値の条件に関連するインシデントが生成され過ぎないようにするには、*異常な*動作にフラグを設定するようなしきい値を設定します。NPS レポートに含まれる相違を詳しく調べることで、異常な動作についての理解を深めることができます。

しきい値を設定する準備が整ったら、**[ノード設定]** フォーム上の **[しきい値の設定]** タブを使用します。このタスクに関して援助が必要な場合は、NPS のオンライン ヘルプの「管理」セクションにある次のトピックを参照してください。

NNM のしきい値の設定

BI サーバーの管理者パスワードの変更

NNMi コンソールに管理者としてログオンしている場合、NNMi コンソール からレポート メニューを起動できます。NNMi のシングル サインオン認証機能が動作しない場合、次の手順に従って NPS レポート メニューを起動できます。

1 次の URL にアクセスします。

   http://<FQDN_of_NPS_system>:9300/p2pd

2 ErsAuthenticationProvider (デフォルト設定) に名前空間を設定します。他のオプション (ErsTrustedSignonProvider) に名前空間を設定しないでください。

3 **[OK]** をクリックします。

4 ユーザー名 ErsAdmin でログオンします。

インストール後、直ちに BI サーバー用のデフォルト パスワード (`ErsAdmin`) を変更することをお勧めします。以下の手順に従ってください。

1 `<Install_Dir>\NNMPerformanceSPI\bin` ディレクトリに移動します。

2 新しいパスワードの次に、以下のコマンドを入力します。

`changeBIpwd.ovpl` < *新しいパスワード*>

3 システムが次のメッセージを表示します。

ErsAdmin のパスワードが正常に設定されました。

9 インストールの問題

問題：インストーラが「*変数の初期設定中に問題が発生しました*」のエラーを示して失敗する

詳細：

この問題は Windows システムで見られます。

解決方法：

%TEMP% ディレクトリの内容を削除してシステムを再起動してから、インストーラを再開します。

問題：システム チェック実行の結果、インストーラによって WARNING メッセージが表示される。

詳細：

警告メッセージが表示されていてもインストールは続行できますが、続行する前に問題を解決することを強くお勧めします。警告は、システムの推奨値を満たしていない場合に表示されます。個別のインストール チェックの名前をクリックすると、詳細を確認できます。詳細は、『*インストール ガイド*』の 11 ページの「前提条件とプランニング」を参照してください。

解決方法：

検出された警告によって異なります。

問題：システム チェック実行の結果、インストーラによって ERROR メッセージが表示される。

詳細：

最小システム要件を満たさない場合、インストールの続行が許可されません。インストールを続行するには、これらの問題を修正する必要があります。

個別のインストール チェックの名前をクリックすると、詳細を確認できます。詳細は、『*インストール ガイド*』の 11 ページの「前提条件とプランニング」を参照してください。

解決方法：

検出されたエラーによって異なります。

問題：NNMi がマシンにインストールされない。NNMi のバージョンが正しくないという NNMi バージョン チェックの ERROR メッセージがインストーラによって表示される。

詳細：

インストーラ チェックの詳細ペインに次のメッセージが表示されます。

NNM のバージョンがサポートされているか確認しています ...

NNM のバージョンがサポートされていることを確認する必要があります。

NNM のバージョン チェックを実行しています

/tmp/HPNNMPerformanceSPI/AppCheckNNMVersion.sh: line 24:/opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl: そのようなファイルまたはディレクトリはありません

ERROR: NNM のバージョンが正しくありません

NNM バージョンはサポートされていません

解決方法 :

次のファイルがあるかどうかを確認してください。*<DATA_DIR>*/NNMVersionInfo そのファイルが存在して、NNMi がシステムにインストールされていない場合は、前にインストールしたバージョンの残余物であり、安全に削除できます。

問題 : インストールに長時間かかる。

詳細 :

一部のシステムでは、インストールを完了するのに最長 2 時間かかる場合があります。その大部分は、BI サーバーおよび拡張パックのインストールに費やされます。スプラッシュ画面が定期的に変化して、右下の砂時計アイコンが回転している場合、インストーラは停止していません。

解決方法 :

インストーラがインストールを完了するまで続行してください。

問題 : NNMi コンソールの [アクション] メニューに [レポート - レポートメニュー] へのリンクがない。

詳細 :

有効化スクリプトが実行されませんでした。

解決方法 :

nnmenableperfspi.ovpl スクリプトを実行してください。23 ページの「有効化 スクリプトの実行」を参照してください。

A サイレント インストールの実行

無人のシステムにサイレント インストールを実行するには、正しいパラメータを含む初期化ファイルが必要です。正しいパラメータを含む初期化ファイルは、通常のインストール時に作成されます。次のテンプレートを使用して、独自の初期化ファイルを作成することもできます。

```
[NONOV.OvTomcatA]
ShutdownPort=8005
Jk2Ajp13Port=8009

[installer.properties]
setup=HPNNMPerformanceSPI
licenseAgreement=true
group=Default
media=E:\packages\
appRevision=9.00.000
tempDir=C:\Documents and Settings\Administrator\Local Settings\Temp\
customFeatureSelected=NNMPerfSPI MetricsExtensionPacks
installDir=C:\Program Files (x86)\HP\HP BTO Software\
customLangSelected= en
dataDir=C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO
Software\
systemDir=C:\WINDOWS\system32
appDescription=HP NNM iSPI for Performance
systemLocale=English
```

iSPI Performance for Metrics を有効にせずに NPS のみをインストールする場合は、`customFeatureSelected` パラメータを `NNMPerfSPI` のみに設定します。

`media` パラメータを、システムのマウントポイントからパッケージ ディレクトリへのパス (メディアのルートにあります) に設定します。

または、NPS のインストール中に作成される `ovinstallparams<` *タイムスタンプ*`>.ini` ファイルを使用することもできます。

サイレント インストールを実行するには、次の手順に従います。

1 テンプレートで作成した ini ファイルを作成して使用するには、次の手順に従います。

   a テンプレートを使用して、以下の名前で独自の ini ファイルを作成します。

      `ovinstallparams.ini`

   b ターゲット システムの `%TEMP%\` フォルダにこのファイルをコピーします。

2 別の NPS インストールで作成した ini ファイルを使用するには、次の手順に従います。

a ini ファイル (`ovinstallparams<タイムスタンプ>.ini`) をソース システム (NPS がすでにインストールされているシステム) から収集します。

この ini ファイルへのパスは以下のとおりです。

`%TEMP%\HPOvInstaller\HPNNMPerformanceSPI_9.00.000`

b 必要に応じてファイルを変更します。iSPI Performance for Metrics を有効にせずに NPS のみをインストールする場合は、`customFeatureSelected` パラメータを `NNMPerfSPI` のみに設定します。`media` パラメータを、システムのマウントポイントからパッケージ ディレクトリへのパス (メディアのルートにあります) に設定します。

c ファイル名からタイムスタンプを削除して、ファイル名を次のように変更します。

`ovinstallparams.ini`

d ターゲット システムの `%TEMP%\` フォルダにこのファイルをコピーします。

3 ターゲット システムに管理者としてログインします。

4 NPS DVD をターゲット システムの DVD-ROM ドライブに挿入し、コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。

`<DVD_drive>\setup.exe -i silent`

5 サイレント インストールが開始されます。進行状況を知らせるインジケータはありません。

6 インストールが正常に終了したかを確認するには、最新のインストール ログ ファイルを確認します。

a 以下の場所に移動します。

`%TEMP%\HPOvInstaller\HPNNMPerformanceSPI_9.00.000`

b 以下のファイルを開きます。

`HPNNMPerformanceSPI_9.00.000_<timestamp>_HPOvInstallerLog.html`

c インストールが正常終了している場合は、最後の行が *Successfully completed.* となっています。

索引

A

Autopass License Management, 39

C

cluster.keystore, 38

D

DBMS, 8

DNS, 11

I

ini ファイルテンプレート , 51

iSPI プロセスのタイミング データ , 45

iSPI for Performance, 9

L

Log File Analyzer (ユーティリティ), 44

Log File Monitor (ユーティリティ), 44

N

nnmlicense.ovpl コマンド , 39

NNM データファイル ディレクトリ , 43

NNM データファイル フォルダ , 43

P

prspi.log, 44

あ

アプリケーション サーバー , 37

アプリケーション ファイル (場所), 42

い

インタフェース レポーティング レポート パック , 44

う

ウィザード
- インストール , 26

き

キーストーン , 38

キーストーン証書 , 38

こ

コマンド
- nnmlicense.ovpl, 39

さ

サイレント インストール , 45

削除
- 専用サーバー , 32

し

しきい値 , 46

指定ユーザー アカウント , 27

す

スクリプト
- 有効化 , 23

せ

設定
- Configuration Checker, 43
- Configuration Utility, 43
- NNM のしきい値の設定 , 46
- ovinstallparams.ini, 51
- パフォーマンスのポーリング , 46
- ユーティリティ , 9

て

ディスク容量 , 45

データ保有のデフォルト , 43

デバイス リソース レポート パック , 44

と

ドメイン名システム , 11

の

ノード カウント (累積と現在), 45

は

パフォーマンスのポーリング , 46

ふ

ファイル
　　キーストーン , 38
ファイル共有 , 12
　　SMB, 12
プラットフォームの組み合わせ , 12
プロセス期間 , 45

ほ

ポート , 11

ゆ

有効化スクリプト , 23

ら

ライセンスの取得
　　恒久ライセンス , 39
　　パスワードのインストール , 39

れ

列ベースの DBMS, 8